

寸言

エクスプローラーコンサルティングジャパン有限公司
代表取締役社長
有限会社オービタルエンジニアリング
取締役社長
次世代宇宙システム技術研究組合 理事長
山口 耕司



宇宙産業の新しいフェーズに向けて

弊社は、1998年創業の(有)オービタルエンジニアリングを母体として、2001年より航空宇宙用材料と機器を中心とした海外市場開拓をフランス及びカナダのパートナー企業と進めてまいりました。

母体のオービタルエンジニアリングでは、航空宇宙材料の開発、宇宙用機器の開発を進めるとともに、2003年より中小企業連携コンソーシアムである「まんてんプロジェクト」での活動、2010年に次世代宇宙システム技術研究組合を設立し、産学連携での超小型衛星の技術開発と宇宙利用開拓を行ってまいりました。

この十数年間の日本の宇宙開発を振り返りますと、2003年JAXA発足、みどり2の故障、H-II A 6号機の失敗、はやぶさの成功など、成功と失敗を乗り越えながら、2008年の宇宙基本法制定があり一歩を踏み出した感があります。また欧米でも、企業統合、宇宙ベンチャー企業の台頭をはじめ、昨年オバマ大統領がサインしたアステロイド法を含む宇宙法の成立と、宇宙の産業化にとって大きな節目を迎えました。この大きな潮目のなかで、日本でも昨年の宇宙基本計画の策定に続き宇宙活動法の整備、宇宙ベンチャーの出現と今までにない新しい産業化の芽が育ち始めました。

今まさに日本の宇宙産業は、新たなフェーズに突入したといえると思います。

この新たなフェーズにおいて、日本の国際競争力を高めていくために重要なことは「宇宙の産業基盤の強化」；

- 1) 日本のものづくり技術をベースとした、コスト競争力のある機器・部品・材料を増やすこと、そのためのプレイヤーの拡充
- 2) 宇宙の産業基盤強化のためのサプライチェーンの在り方を見つけていくこと
- 3) 新たな宇宙利用の開拓

と考えます。この三点を実現するために、内閣府最先端研究開発支援プログラム（FIRST）にて「ほどよし衛星」の開発を実施、その実証に努めてまいりましたが、プログラム修了後も引き続き、さらなる企業の参入機会や教育機会の増大、軌道上実証機会が必要と考えており、技術研究組合やコンソーシアムでの活動を進めていきたいと強く考えております。併せて近年は、次世代を担う学生や子供たちの理科離れも大変気になる状況であり、「ものづくりを中心とした宇宙教育」の充実の必要性を痛感しております。常に課題としてあがる「新たな宇宙利用」に関しましても、我が国だけではなく、ASEAN諸国も対象にした防災や減災に向けた取り組みも進めています。

「あの坂をのぼれば海が見える」という有名な一節があります。すべての取り組みはまだまだ坂の途中ではありますが、やっと少し潮の香を嗅いだ様な気がします。いつまでも海にはたどり着けないのかもしれませんが...けれどもあきらめずに続けて行くことを信念として続けていきたいと思っております。

小さく微力な組織ではございますが、皆様のご指導、ご協力を賜れますよう、宜しくお願ひ申し上げます。